

東日本大震災の教訓を踏まえた取り組み

- 『つなぎ続ける使命』を果たすため、通信ネットワークの更なる信頼性を向上
- 大規模災害を視野に入れた各種対策を推進

1. 災害に強い 設備作り

- ▶ **通信ビルの停電対策、水防の強化**
 - ・ 広域長時間停電対策、水防板・水防扉の設置 等

2. 災害直後の 通信確保

- ▶ **非常時における情報連絡手段の確保**
 - ・ 情報ステーション化の促進
 - ・ 災害用伝言サービスの高機能化

3. 早急な通信 サービスの復旧

- ▶ **災害対策機器の充実**
 - ・ 可搬型WiFi装置、新型ポータブル衛星等の配備 等

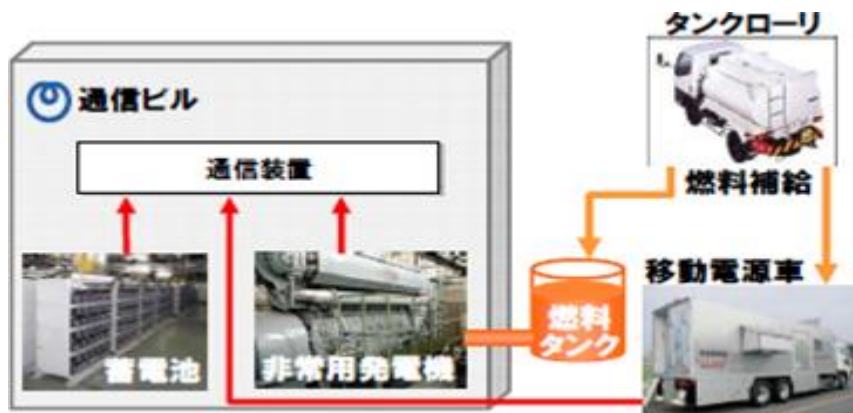
1、通信ビルの停電対策、水防の強化

■ 従来の取り組みに加え、大規模災害の発生を想定し、停電対策や防水対策を強化

従来の取り組み

《停電対策》

- 全通信ビルに大容量蓄電池や非常用発電機を配備
- 停電の長期化に備え、移動電源車を配備



《通信ビル対策》

- 激震(震度7)に対して倒壊、崩壊を避ける構造
- 自治体等で想定した津波水位や過去の浸水、河川氾濫を考慮した水害対策
- 耐火建築、火災を感知、消化する設備を構築

新たな取り組み

《広域長時間停電対策》

- 非常用発電機設置ビルの追加
- 非常用発電機故障対策
(予備発電機設置、近隣ビルからの電源供給)
- 移動電源車、タンクローリによるオペレーション強化

+

《通信ビルの水防対策》

- 自治体のハザードマップに合わせた水防
(水防板・水防扉の設置)



水防板



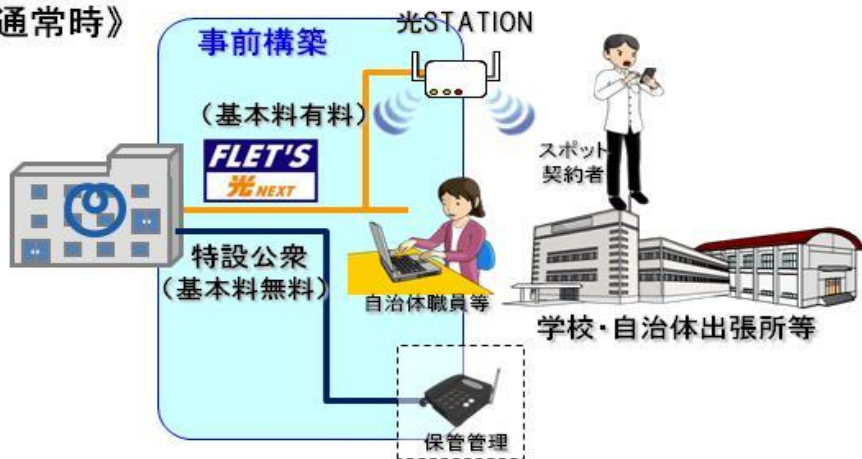
水防扉

2. 非常時における情報連絡手段の確保

- 安否確認等の連絡手段の提供に向け、非常用の電話及びインターネット環境を事前に準備する『情報ステーション化』を推進
- 他事業者伝言板との相互連携や登録内容をメールや音声で通知する機能の追加等、災害用伝言サービスの利便性を向上

情報ステーション化の推進

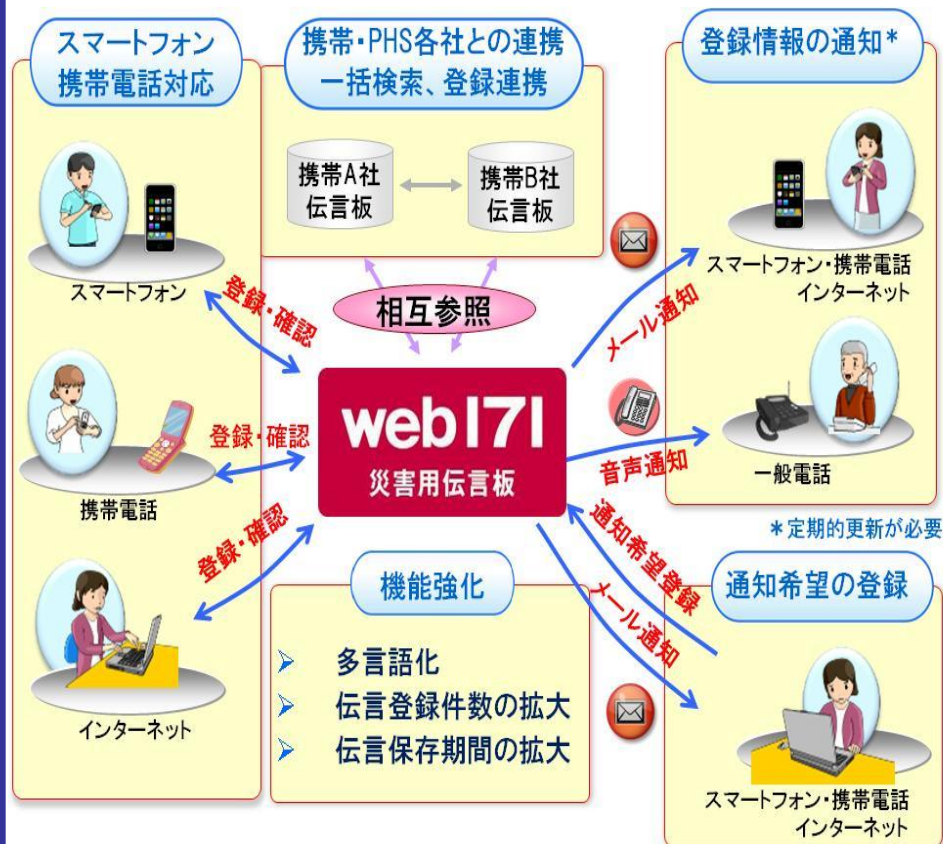
《通常時》



《災害発生時》



災害用伝言板(web171)の高度化



3. 災害対策機器の充実

- 通信の孤立エリアへの早期サービス復旧に必要な無線災害対策機器等を充実し、大規模災害や豪雨・暴風等の自然災害にも対応する

災害対策機器の導入概要

- ① 可搬型Wi-Fi装置の導入
 - － 迅速なWi-Fiエリアの構築により、Wi-Fi対応端末へブロードバンド環境を提供
- ② 新型ポータブル衛星の導入
 - － 衛星自動捕捉、最追尾による効率的な設置を行い、迅速に通信環境を提供
- ③ 可搬形中継用無線装置の導入
 - － 災害等により中継伝送路が切断した際の、安定した大容量無線伝送を実施
- ④ 社内連絡用無線(トランシーバ・車載搭載)の導入
 - － 速やかなサービス復旧に向けた、社内・グループ会社間での連絡体制(システム)を強化



【災害対策機器の活用シーンイメージ】

